

がんばってます神戸の農業 NO. 4 岩岡町

多彩な農産物の生産が行われ、多様な農村地域がある神戸市の農業委員の地元を順次紹介していきます。今回は、西区の岩岡町と野中集落をご紹介します。

岩岡町

神戸市の最西部に位置し、古くから神出と播磨地方を結ぶ交通の要路になっていました。水利に乏しく、雑木林が点在する土地でしたが、元禄時代から開発が行われ、明治以降の淡河・山田疎水や東播用水の完成により、農業が盛んな地域に生まれ変わりました。

商業作物として開かれた煙草畑には、明治に西洋の品種と技術がいち早く導入され、近代煙草栽培の発祥地とされています。

近年、都市化が進んでいますが、キャベツやイチジクなど多くの作物も栽培されています。

野中

野中は、岩岡町の中央北部にあり、加古郡稲美町に接しています。岩岡町には、ため池が多く、地域内にも3つのため池があります。

野中は、下講（シモゴウ）、谷講（タニゴウ）、新開（シンガイ）、寺講（テラゴウ）、中講（ナカゴウ）、上講（カミゴウ）、前講（マエゴウ）、内山（ウチャヤマ）、沌戸（ドンド）の9集落から成り、それぞれ順に3集落が集まって、「寺下（テラシモ）」、「寺上（テラカミ）」、「内山（ウチャヤマ）」の3自治会を形成し、総称して「野中自治会」と言います。野中自治会の会員数は、347戸（平成26年度現在）あります。

青木農地部会長の谷講集落は、寺下自治会に属し、農家数は、32戸で、その内15戸が専業農家、13戸が兼業農家です。

野中地域では水稻栽培をしている農家为中心です。また、地場野菜類では「地場野菜出荷組合」という大型店舗内で販売する直売組織があります。そのほか、仕事を定年後に農業に熱心に取り組まれている方もいます。

○がんばる若手農業者（前田 常貴（ツネキ）さん 40歳）

谷講集落の前田さんは実家の農業を継ぐため、会社を辞め、13年前から農業に父親、母親と一緒に3名で従事しています。

農作物は、水稻の他、ハウスでいちご、きゅうりを栽培しており、JAの直売所に出荷されています。

いちごについては、就農時に前田さんが独自工夫をして栽培されてこられました。

地域に根差した農業を目指しながら、「効率的に仕事を行うと同時に、品質にもこだわっていききたい！！」と熱意のある口調で前田さんは話されました。



前田 常貴さん

○寺下農機具利用組合（組合長 穴田（シシタ） 勝彦さん 59歳）

寺下農機具利用組合は、40年ほど前から設立された歴史のある組合で、オペレーター11名で運営しており、下講、谷講、新開の3集落の地区で活動されています。

「組合を維持することは大変だが、利用される農家の作業量、作業費を少しでも下げ、農家の所得向上につなげられるような組合にしていきたい！！」との穴田組合長の言葉からは強い意志を感じました。



穴田 勝彦組合長

○野中の清水（シミズ）

野中の清水は、古今集の昔から、多くの和歌にも詠まれ、謡曲や狂言にも取り上げられてきた名所です。どんな日照り続きの時も清水が湧き出ており、日本五水のひとつとも播磨十水のひとつとも言われています。

平成8年に野中の清水公園として整備され、清水が湧き出ております。



○行事

主に野中自治会主催の行事が行われています

1月は、とんど祭り 3月は、岩岡町開発記念式典 4月は、岩岡町ソフトボール大会
7月は、河川一斉クリーン作戦 8月は、野中の里まつり 10月は、岩岡神社秋祭り、
岩岡町体育祭 11月は、「岩岡を歩こう会」（野中の清水まつり）などが開催されます。

野中の清水